

《新入会員》

河合真規子 570-0083 守口市京阪本通1-10-2-1107

今年から、日めくりカレンダーをめくらないで、毎日短詩を書き込むことにしました。

すると急に言葉の風が吹いて来たのです。

そして春になり、万寿詩の会が始まりました。

言葉をひねり、言葉と遊び、人生を想う一日…

今、言葉の風は私に寄り添うように吹いていると感じています。どうぞよろしくお願ひします。



森田好子 571-0893 茨木市玉瀬町34の15の3

沖縄県で生まれ育ちました。自然豊かで亜熱帯のジヤングルで遊びまわった楽しい思い出と共に、祖国復帰をスローガンにデモ行進、ドルの使用、また、米軍のトラックが通るたびに恐怖から逃げ隠れた思いが私の原点です。

大阪では、子ども達の日常や思いをオペレッタ(物部一郎作曲)にして発信する中で言葉の持つ力や強さ、楽しさを実感してきました。今は「万寿の会」で詩を書いています。小さな幸せを積み重ねて心模様を詩に託していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。



吉川悦子 570-0071 守口市祝町7の6

小学校の教師をしていました。

子ども達と詩の鑑賞をしたり、創作指導をしたりしていました。自分が詩を創るなど思ってもいませんでした。しかし、何編か創っていくうちになんだか楽しくなってきました。

この会の会員でもある高丸もとこさんのお誘いで入会することになりました。よろしくお願ひします。

宮崎陽子 〒525-0002 寝屋川市成田東が丘25-24

少し汗ばむ日和でしたが、ブルーベリー摘みに出かけたその帰り、道の駅で水なすとピーマン、ついでに鈴虫用のキュウリを買ってきました。

こんなふうには、車でふらっと出かけ、

散歩を楽しむのが大好きなわたしです。

どうぞよろしくお願ひします。



《新入会員の作品》

風のひみつ

河合真規子

菜の花畑を渡ってゆくさや風の中から聞こえてくる

もう今では昔の

あなたとわたしの会話が

生まれたばかりの若葉光る風の中から聞こえてくる

もう今では昔の

あなたとわたしの会話が

暮色の街 人々の疲れ癒す夕風の中から聞こえてくる

もう今では昔の

あなたとわたしの会話が

そう

生きている

誰にも知られずに

あの時の私達が

風の中に生きている

あの子

森田好子

あの子がいると

うち うれしいねん

だいじょうぶ

いっしょに遊ぼ

手伝おうか

めっちゃ いいことも せえへん

めっちゃ あかんことも せえへん

けど 一生懸命

あの子がいると

うち 落ちつくねん

やさしいやろ

約束守るやろ

いつも気いつこてくれる

めっちゃ 失敗してはる

めっちゃ しっかりしてはる

そやから なんでも話せる

あの子がいると

うち 笑うてまうねん

本

吉川悦子

そつとページをめくる

そこは言葉の海

ゆらゆら ゆらゆら

言葉の海に私はうかぶ

ゆらゆら ゆらゆら

言葉が私をつつみこむ

愛
ありがとう

家
生きる

歌
うまれる

縁
永遠

老
思いやり

言葉の海は静かに広がっていく
豊かな時が流れ
やがて
そつとページをとじる

サンクトペテルブルクにて

宮崎陽子

大通りを少し入ると
ストロガノフ宮殿
ビーフストロガノフをいただく
ビールで乾杯
赤ワインで祝杯
そして
ウオッカ
香り高く きゅつと引き締まって 冷たく
喉の奥が熱い

ロマノフ王朝の貴族達の楽しみ
レーニンも文豪トルストイも
このウオッカと柔らかく煮込まれた肉を楽しんだだろう

白夜の夜
歌い 議論し 語り尽くす
熱い思いが やがて喉元を過ぎる

2019年度第5回関西詩人協会

運営委員会議事録

日時：2019年8月18日(日) 13:30

場所：大阪国労会館第一会議室 出席者15名

議事進行(名古)

入退会報告 退会3名(すみくらまりこ・上村多恵子・原子修) 永年会員申請者0名
ご逝去1名(宇田良子)

会計報告 2015年以前の会費未納者(12名)は退会者とみなす。それ以降の未納者には運営委員が連絡できる人には入金を促す。

国際交流 「言葉の花火」を英語からルーマニア語に翻訳の案件あり、進行中

ホームページ アクセス数 55208 (8/17)

掲載する会員の詩・エッセイの作者確認
会報 次回10月1日発行 締め切り8月末

総会・詩和会・詩画展・詩のマーケットの報告・冬の詩画展等の記事

自選詩集・創立25周年誌の進捗

事務局長永井委員としての参加を希望、本人了承
年間行事について

冬の詩画展 グループ展とするか 写真・絵画必ず詩を入れる。

創立25周年記念誌 詩集発行日等確認をしているがその作業はなかなか大変である。

詩のイベント 会報通り

「詩の広場」(10月1日号) 出来上がっている
詩のフリーマーケット 神戸ともども次回(未定)を

期待・費用折半。詳細報告は次回に。
総会について 講演の講師 以倉氏に依頼を承認。

11月17日 1時30分から キャッスルホテル

その他 関西詩人協会新人賞の提案、研究会・実作講座のようなものの提案、福井県詩人懇話会「ふくい県詩祭」三國」の案内連絡。(書記 藤谷恵一郎)

《ホームページ報告》

《会員の詩》三篇(8月1日～10月31日)

竹内正企 「老後のなごさ」

司 茜 「なんで切らなあかんのやろ」

小野田潮 「鬼百合」

《会員のエッセイ》

市原礼子 「マチカネワニと波の化石」(8月1日～8月31日)

和比古 「万博点描」(9月1日～9月30日)

山田兼士 「古墳の街から」(10月1日～10月31日)

その他「会員の活動」「会報」の更新あり。(文責 松村信人)

《入会》なし

《退会》16名

宇田良子(逝去)、上村多恵子、上高小百合、設楽壽一朗、すみくらまりこ、仲 玲央、波多野公央、原子 修、ますおかやよい、南 明里、毛利真佐樹、安田もとひろ、山下基宏、吉田國厚、油野 勤、若松千恵子

《会員の活動》

左子真由美氏 7月28日 京都音楽サークル協議会「夏の詩の教室」にて講師。

有馬敲氏 『子どもといっしょに読みたい詩 令和版』に詩「かもつれっしや」「変化」が収録された。

あたるしまししょうこ中島省吾氏 雑誌「星と泉二十五号(星湖舎)に小説「児童養護施設恋愛 養護施設の友達」

がプロ枠で掲載される。二〇一九年九月一日ラジオ岸和田放送のバイブルスタディにて詩「教会をやめないで」「神さまに恥ずかしい世の中」「しなければいけないことのために」が朗読される。朗読者は岸和田栄光教会西川武牧師。

井上良子氏 二科展六本木新国立美術館入選、メセナひらかたウィルフエスタ9/21詩の会ROSA詩の展示11/3枚方市立御殿山図書館言葉でスケッチしよう講師。

神田さよ氏 日本詩人クラブ理事に就任。

佐相憲一氏 日本詩人クラブ理事長に就任。横浜詩人会賞選考委員長を務める。長野佐久市にて朗読出演。

近藤摩耶氏 令和元年5月31日 日本文藝家協会の文藝家協会ニュースNo.791の「会員通信」に執筆。

吉田定一・山本なおこ氏 出版記念会が京都嵐山の「花のいえ」で開催され、関西詩人協会会員他多数あつまり祝われた。

ひょうご歌曲の会のサロンコンサートが6月15日にあり「母の家ベテル」で瑞木よう、永井ますみ作詩の歌が歌われた。

竹林館祭が6月9日に大阪キャッスルホテルで開催され 関西詩人協会会員多数参加された。

安森ソノ子氏・毎月第一・三日曜日に放送している、ラジオFM79.7で「大学学長・元大学学長と語る」というシリーズを放送しているが8月4日に「沖縄大

学元学長・加藤彰彦氏と語る」を放送。

『言葉の花火2018 第7集』がルーミアニア語に!!

9月10日、ルーミアニアの詩人、MALAESCU ANGELICAさんから『言葉の花火2018 第7集』のまるごと一冊分のルーミアニア語訳がメールの添付で送られてきました。挿絵も入って美しく整えられた本の形になっています。参加者の方には、ご自身の部分をコピーして会報と共に送らせていただきます。また、全体をご覧になりたい方にはご連絡をいただければメールの添付でお送りいたします。MALAESCU ANGELICAさんは俳句もされていて日本文学が大好きな方ようです。

『今後の予定』

詩の実作講座

- 9月28日(土) 第448回 午後6時～9時「クイーン(Queen)の詩」ボヘミアン・ラブソングなど」寺沢京子
- 10月26日(土) 第449回 午後6時～9時実作(その場で題を決めて詩を作ります)なし
- 11月30日(土) 第450回 午後6時～9時「吉原幸子詩集」幼年連袴」をめぐって」吉田定一
- 12月25日(水) 第451回 午後6時～9時「片岡文雄詩集」おらんくの唄」を読む」左子真由美
- 1月25日(土) 第452回 午後6時～9時「名詩鑑賞」詩の技法」尾崎まこと

詩を朗読する詩人の会「風」

- 場所・スペースふら 時間午後二時半開始
- 10月20日ゲスト 永井ますみさん
- 11月17日は関西詩人協会総会のためお休み
- 12月15日ゲスト 熊井三郎と「100円詩集」の仲間たち

詩朗読文化の会「あい」

毎月第一、三火曜日に朗読練習会を行っています。場所は新大阪ココプラザ

朗読会「北原白秋と出会いなおそう」

日頃の「あい」の練習の成果を聴いていただきます 日時 二〇一九年十二月七日午後二時開演

場所 新大阪ココプラザ ミニイベントルーム

オープンマイクもあります。お気軽にお出かけ下さい 問合せは田村照視まで ☎075-314-6449

黄金のあみ コンサート—未来へ贈る創作童謡と歌曲—

日時 2019年11月4日(月・振休) 13:30開演 (13:00開場)

場所 大阪市立青少年センター ココプラザ2階 エキスプレッス・ココ 主催 創作童謡の会「黄金のあみ」 問い合わせは下田喜久美まで ☎090-7344-7933

石上露子没後60年記念のつどい

10月13日pm1:30から 富田中央公民館。奥村和子氏はパネルディスカッションに出演、記念事業で絵本『絵本石上露子』発行文、執筆。

中尾彰秀氏 10月13日(日) 午後4時

EARTHPOEMPROJEKT 42 in「まごむし音楽堂」

日本歌曲振興波の会 第3回定期演奏会 新作歌曲の夕べ2019

日時 2019年11月1日午後6時

場所 紀尾井ホール(四谷駅麹町口徒歩6分) 内容 詩・作曲・声楽の三部門による創作歌曲の会 入場料 4000円

ここで香山雅代さんの詩「呼ぶ声」が高橋通作曲、氏家と歌子歌、尾崎風磨ピアノで演奏されます。

《会員の新聞詩書》(紹介文・山田兼士)

清沢桂太郎詩集『浜までは』ブックウエイ

清沢桂太郎詩集『道に咲く花』ブックウエイ

左子真由美詩集『RANXUN(輪廓)』竹林館

詩を中心とする出版社を営む著者の第9詩集26篇。行分け詩、散文詩、ひらかな詩を使い分け、平易な言葉で懐かしい情景や歌や心象の輪廓を浮き上がらせる手法は、プレヴェールや杉山平一を彷彿させる。端正な佇まいに滲む抒情が穏やかで懐かしく、そして新鮮だ。

田井千尋詩集『綾羅錦綉』竹林館

和歌山県在住の著者が四季折々の動植物たちを中心に、400ほどの作品を各50字にまとめた一冊。3行から6行ほどの横書き詩篇が各頁4篇ずつ整然と並んでいる様は単調だが毅然とした佇まいを見せている。愛犬への眼差も優しく微笑ましい。独自の散文詩も数編。

徳永遊詩集『生きている間』土曜美術社出版販売

1947年生まれの著者による23年ぶりの第2詩集49篇。内容は多彩だが、多くは幻想や夢想や悪夢をモチーフにし、特に金魚や狸などへの変身譚が面白い。日常生活や人生に想を得た作品もあり、こちらは少女期や幼年期への郷愁が基盤にあると思われる。

中地中詩集『孤高のニライカナイ』土曜美術社出版販売

詩54篇に論考を付す独自の構成。長い実務生活を経た後に沖繩、特に久高島の伝承に見せられた著者が、島の空気に浸り歴史書などを紐解くことで、ニライ・カナイ伝説の聖性に触れ、現地の言葉を混じえつつ独自の響きをもつ詩語を生成せしめた。

根本昌幸詩集『桜の季節』2019年7月 竹林館

1946年生まれの詩人による第11詩集。福島県浪江町からの難民として原発事故やその後の経緯を書いた作品にまず目が行くが、何よりも命を凝視し死を透視し生を生きる姿を彷彿させる詩が重要だ。娘夫婦を亡くした経験が間接的にせよ大きな影を射しているのだろう。

中尾彰秀 第58回ピアノインプロヴィゼーション

『覚醒 今ここ遙か』森羅通信

中尾彰秀詩集『万樹奏』2019年8月(竹林館)

1952年生まれ和歌山の詩人による第25詩集。「万樹」とは地球のこと(「あとがき」による)。表題通り、森羅万象との交感もしくは融合を理想とし、その一歩ずつが各詩篇となっている、との認識を元に行っているのだろう。身近な現実には永遠の相を垣間見る方法が特徴か。

熊井三郎 研究評論『知られざる戦時下の抵抗詩人 階戸義雄の生と詩』

『図書』

外村文象エッセイ『私と文学と人生』22世紀アート電子

『図書』

水野ひかる(真鍋満智子)句集『天辺の鳥』角川書店

《会員発行の詩誌》

100円詩集

CYPRESS 24号

KAIGA 11号

Soliste 25号

異郷49号

新燎原31号

銀河詩手帖294・295号

熊井三郎

岸田裕史個人誌

原口健次

岩井洋

村上久雄

小林尹夫

近藤摩耶

軸132号

20 174号

放課後10号

録80号

リヴィエール165号

《団体の会報・図書》

秋田県現代詩協会会報60号

いしかわ詩人48

いちご通信24号 大分県詩人連盟

茨木県詩人協会会報28号

栃木県現代詩年鑑2019

大分県詩人協会会報154号

小樽詩話会624号(冊子)

OCOS 22号 大阪文化団体連合会

岐阜県詩人協会会報13号

群馬詩人クラブ310

埼玉詩人協会会報90号

詩界通信87号 日本詩人クラブ

しずおかの詩137号

中日詩人会会報195

中四国詩人ニューズレター46号

徳島年刊詩集二〇一九 徳島現代詩協会

栃木県現代詩年鑑2019年版

長野県詩人協会会報141

日本現代詩人会会報155

福井県詩人懇話会会報101

福島県現代詩人会会報121号

福岡県詩人会会報174号

兵庫県現代詩協会会報45号

北海道詩人147号

三重県詩人集27号

宮城県詩人会会報29号

原圭治

左子真由美

西喜久子

呉屋比呂志

横田英子